

研究課題名	【Web 会議番号 2020_12】 少量経口負荷試験による食物アレルギー児の保護者の不安軽減効果の検討
フリガナ	マキタ エイシ
代表者名	牧田 英士
所属機関（機関名） （役職名）	自治医科大学附属さいたま医療センター小児科 助教
本助成金による発表 論文，学会発表	第 57 回日本小児アレルギー学会学術大会(2020 年 10 月 31 日-11 月 13 日、Web 開催) 「少量経口負荷試験による保護者の不安軽減効果の検討」

## 研究結果要約

海外では食物経口負荷試験 (OFC) による保護者の quality of life の改善や不安軽減効果の報告があるが、抗原や負荷量によっては効果がないという報告もある。今回我々は本邦で広く行われている少量負荷の OFC による保護者の不安軽減効果を検討した。

地域の開業医から当科を紹介受診し、即時型反応の既往があり、初めて少量 OFC を行う予定の乳幼児 60 例(抗原は鶏卵 32 例、牛乳 22 例、小麦 6 例)とその母親を対象とした。母親に、(1)初診前、(2)初診後、(3)OFC 終了時、(4)OFC の 1 か月後、の 4 つの時点での不安の強さをアンケート調査した。不安軽減効果と不安が残るリスク因子について検討した。

対象の年齢の中央値は 1.2 歳 (範囲 0.9-6.2) で、OFC 陽性例は 15 例 (33%) で、アナフィラキシーの症例はいなかった。(1)から(4)の各時点での不安の強さは、経時的に低下しており、OFC 陽性、陰性ともに OFC 前後で有意な軽減を認めた。最終的な不安が強く残るリスク因子は OFC 陽性のみであり、他にリスクとなる背景因子はなかった。

少量 OFC は重度の症状は出現しにくく、OFC 結果にかかわらず保護者の不安軽減効果があるため、より積極的な施行が望まれる。